



Letter for Members

日本補綴歯科学会
ほてつ

Japan Prosthodontic Society

<http://www.soc.nii.ac.jp/jpds/>

発行人 川添堯彬

編集 広報委員会

事務局 〒170-0003 東京都豊島区駒込 1-43-9 (財)口腔保健協会

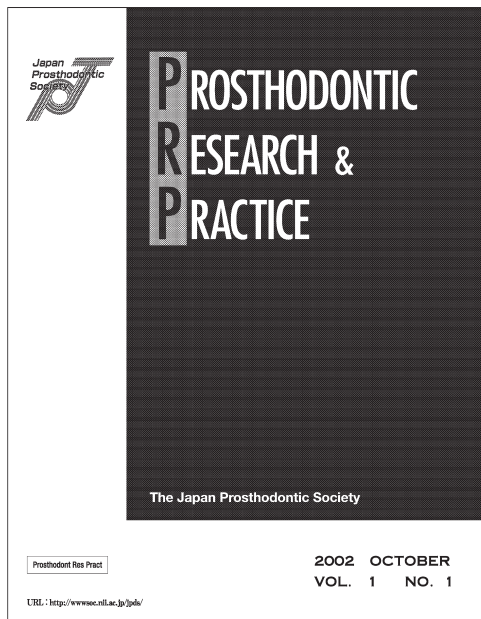
TEL 03-3947-8891 FAX 03-3947-8341

平成 14 年 10 月 10 日発行

コンテンツ

重点目標の成果実る	1	今後の学術大会	5,6
次々期会長選出される	2	支部学術大会のお知らせ	6
英文誌 Prosthodont Res Pract 創刊される	2	公益法人とは	6,7
歯科補綴学教育基準 2001 改訂 (案)	2	日本学術会議咬合学所属 14 学会代表者会議に ついて	7,8
診療ガイドライン 3 部作完成する	2,3	海外研修機関の紹介	8,9
歯科補綴学専門用語集—疾患・病名・検査編— (案)完成する	3	関連学会案内	9, 10
平成 13 年度決算ならびに平成 14 年度予算に ついて	3,4	関連学会報告	10, 11
認定審議会委員ならびに認定医審査委員の 変更	4	関連国際学会報告	11
本会誌に投稿しよう	4	新規認定研修機関の紹介	11
日本補綴歯科学会デンツプライ賞創設される	5	新指導医・認定医紹介	12
学術大会の問題点を探る	5	新入会会員紹介	12
第 109 回学術大会案内 (予報)	5	法人会員紹介	12
		広報委員会からのお願い	12
		ニュース	6,10

重点目標の成果実る



Prosthodont Res Pract 創刊号

今期執行部では、6 項目の重点目標に沿って積極的に各種委員会が活動を続けてきました。その結果、すでに重点目標のうち、「特定推進研究のテーマの設定・奨励・顕彰」、「会員数・範囲の増強、拡大」、「認定医の増強」については、具体案を作成し、実行に移してきました。

この度、「学術情報の英語化」としての英文誌「Prosthodontic Research & Practice」を編集委員会の絶大なるご尽力により創刊することができました。また、「歯科補綴学教育基準 2001 改訂」(案)、「診療ガイドライン 3 部作」、「歯科補綴学専門用語集—疾患・病名・検査編—」(案)についても完成することができました。残る重点目標である「補綴領域への疾患・病名の導入と治療体系の再編」、「法人化」につきましても、今年度中には具体案を実現するために、関連委員会において精力的に検討を行っていますので、今後、ニュースレターでご紹介いたします。

今回のニュースレターでは、次々期会長選挙の結果、英文誌創刊、歯科補綴学教育基準 2001 改訂、診療ガイドライン 3 部作、歯科補綴学専門用語集などに関する記事を掲載しました。

次々期会長選出される

評議員による次々期会長選挙が平成 14 年 5 月から行われ、赤川安正教授（広島大学大学院医歯薬学総合研究科展開医科学専攻・顎口腔頸部医科学講座）が第 31 代日本補綴歯科学会会長に選出されました。

今回から、選挙制度が一部改正され、従来 2 名連記であった第 1 回目の投票が単名記入となりました。また、上位 3 名を候補者として各先生には所信表明を行って頂くことになりました。今回は、上位 3 名の先生方に所信表明を行って頂きました。選出された 3 名の先生は、本学会の将来について真剣な思いを表明されていました。第 2 回目の選挙でも過半数を獲得した候補者がいなかったため、上位 2 名の先生により第 3 回目の選挙が行われました。その結果、赤川安正教授が次々期会長適任者として選出され、第 108 回学術大会時の総会で次々期会長に正式承認されることになりました。

英文誌 Prosthodont Res Pract 創刊される

編集委員会では、英文誌編集委員の追任を行い、3 月に投稿を締め切り、4 月から査読者の選定、著者照会、ネイティブチェックなどを行ってきましたが、いよいよ英文誌が創刊される運びになりました。Vol. 1, No. 1 には、理工系 5 題、機能系 5 題、臨床系 3 題、計 13 論文が掲載されています。創刊号ということで論文の投稿数が少ないのではないかと危惧していましたが、会員の皆様のご協力により、学会誌として十分な論文数を確保できるとともに、論文内容にしても理工系、機能系、臨床系とバランスのとれたものであり、充実した内容の英文誌を創刊することができました。Vol. 2 以降も多数の論文の投稿をお待ちしております。（投稿締切：平成 15 年 2 月末日を予定）

歯科補綴学教育基準 2001 改訂（案）

教育問題検討委員会では、「歯科補綴学教育基準 平成 6 年改訂版」および「歯科補綴学教育基

準 平成 10 年補遺版」の改訂作業に着手してきました。その結果、以下のような見出し項目および大項目の原案が平成 14 年 5 月開催の理事会、評議員会で認められました。そこで次に中項目および小項目について全評議員に意見聴取を行い、その結果をもとにさらに検討、承認を受け、今年度中に本誌に掲載します。

I 歯科補綴学・治療総論

- (I) 歯科補綴学の意義・目的
- (II) 歯科補綴治療に関連する顎口腔系の形態と機能
- (III) 歯科補綴治療と生体反応
- (IV) 顎口腔系と精神心理的・社会的側面
- (V) 歯科補綴用器材

II 歯科補綴学・治療各論

- (I) 歯質・少数歯欠損による咬合咀嚼障害の補綴治療学
- (II) 歯列部分欠損による障害の補綴治療学
- (III) 無歯顎による障害の補綴治療学
- (IV) 顎顔面欠損による障害の補綴治療学
- (V) 欠損・障害の口腔インプラント補綴治療学
- (VI) 顎機能障害の補綴治療学
- (VII) 歯・歯列・歯周組織・口腔の疾患・障害の補綴治療学
- (VIII) 咀嚼嚥下障害

診療ガイドライン 3 部作完成する

診療ガイドラインは、医療技術の使用に関する基準や指針であり、医療関係者の意志決定を支援し、日常診療において参考となるものです。行政でも診療ガイドラインの作成を推進しており、すでに医科では、「慢性肝炎診療のためのガイドライン」、「ウイルス性肝炎診療のガイドライン」、「高脂血症治療ガイドライン」、「糖尿病診療ガイドライン」、「放射線診療ガイドライン」、「急性膵炎の診療ガイドライン」、など、各種疾患に対する診療ガイドラインが作成されています。

ガイドライン作成委員会では、このような時代のニーズに沿って「咬合異常の診療ガイドライン」、「顎機能障害の診療ガイドライン」、「咀嚼障害評価法のガイドライン—主として咀嚼能力検査法—」の 3 種ガイドラインを検討してきました

が、評議員からの意見聴取を行い、第46巻第4号に掲載いたしましたので、是非、ご一読下さい。また、本診療ガイドラインを別刷とし、関係学会や団体に送付することになっています。

歯科補綴学専門用語集 一疾患・病名・検査編一(案)完成する

用語検討委員会編集による「歯科補綴学専門用語集」が平成13年に医歯薬出版から発刊しました。この用語集は、多くの会員に利用されるとともに、各種関係団体からは高い評価を得ていました。その後、治療に際して必要な疾患名や病名などを整理したうえで追加すべきとの意見や追加すべき用語が増加したため、また、先に発行した診療ガイドラインにも利用されている検査法を追加する必要が出てきました。

そこで今期の用語検討委員会では、「歯科補綴学専門用語集一疾患・病名・検査編一」(案)としてまとめ上げ、今後承認を受けて、本会誌に掲載することになりました。なお、この冊子は各種関係団体にも送付されます。

追加されたものは、1) 歯科補綴学専門用語集やそのほかの用語集から抽出し、以下に示す分類に加えた用語、2) 抽出したうえで説明を加えた用語、3) 新たに追加した用語、4) 新たに追加し、説明を加えた用語、です。

以下、その一部をご紹介します。是非、ご利用ください。

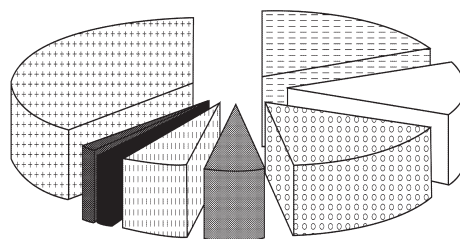
- I 異常・疾患(病名)・障害・主要症候に関する歯科補綴学用語
 - MPD症候群(用語集から抽出)
 - 義歯性口内炎(用語集から抽出し説明を追加)
 - 嚥下障害(用語のみ追加)
 - 異常機能[顎口腔系の](用語と説明の追加)
- など
- II 診察・検査・経過観察に関する歯科補綴学用語
 - 嚥下法(用語集から抽出)
 - 下顎運動検査(用語と説明の追加)
 - 下顎安静位利用法(用語のみ追加)
 - 筋電図検査(用語と説明の追加) など

平成13年度決算ならびに 平成14年度予算について

平成13年度の決算ならびに平成14年度の予算が、第107回学術大会時の定例総会で承認されました。平成13年度の歳入は、予算に比べて学会参加費や掲載・別刷料が減少したため、予算額よりやや少ない収入となりました。しかし歳出は、雑誌発行費、大会費、事務費が予算より少なくなったため、単年度収支5,384,301円の黒字となりました。

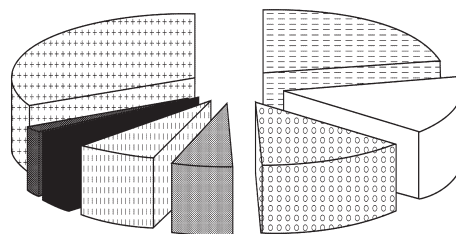
なお、平成13年度監査については、監事の森谷良彦教授(日本大学総合歯学研究所)、藤井輝久教授(朝日大学歯学部歯科補綴学講座)により適正と認められています。

平成14年度予算案は、歳入も増加していますが、歳出も増加したため、単年度収支は4,958,000円の赤字となりました。これは、今年度ガイドライン作成費、用語集作成費、教育基準作成費などの委員会関連事業費が増加したことなどによるものです。しかし、2年間の連結決算で



■雑誌発行費 □大会費 ⊞会議費等 ■支部助成金
▨事務費等 ■その他 ■名簿積立金等 ⊞次年度繰越金

平成13年度決算(歳出)



■雑誌発行費 □大会費 □会議費等 ■支部助成金
▨事務費等 ■その他 ■名簿積立金等 ⊞次年度繰越金

平成14年度予算(歳出)

は426,301円の黒字を計上しており、本執行部では健全運営がなされているものと思います。

平成13年度認定関係決算では、歳入51,783,934円の予算に対して、決算55,904,705円と8%の増加をみました。これは、認定医更新手数料の増加によるものです。歳出は、認定医研修会経費の減少により6,386,000円の予算が5,494,946円と14%減少しました。その結果、単年度では4,175,825円の黒字となり、次年度繰越金は、50,409,759円となりました。また、平成14年度も単年度6,607,000円の黒字の予算を立てることができました。

認定審議会委員ならびに 認定医審査委員の変更

認定審議会委員のうち一部の支部推薦委員の先生方の任期が切れましたので、4名の先生が委嘱されました。新旧併せてご紹介いたします。なお、これらの先生方は支部の認定医増強支援にもご尽力頂いております。認定医取得あるいは更新についてご不明な点がありましたら、お気軽にご相談ください。

東北・北海道支部：清野和夫教授*（奥羽大学歯学部歯科補綴学第2講座）

関越支部：河野正司教授（新潟大学大学院医歯学総合研究科口腔生命科学専攻顎顔面再建学分野）

東関東支部：櫻井 薫教授（東京歯科大学歯科補綴学第1講座）

東京支部：新谷明喜教授（日本歯科大学歯学部歯科補綴学第2講座）

西関東支部：豊田 實教授（神奈川歯科大学歯科補綴学講座）

東海支部：田中貴信教授*（愛知学院大学歯学部歯科補綴学第一講座）

関西支部：井上 宏教授（大阪歯科大学欠損歯列補綴咬合学講座）

中国・四国支部：皆木省吾教授*（岡山大学大学院医歯学総合研究科咬合・口腔機能再建学）

九州支部：田中卓男教授*（鹿児島大学歯学部歯科補綴学第一講座）

（*印は平成14年度より新任の支部選出認定審議会委員です）

また、同時に認定医審査委員の先生の任期切れにより委員の変更がありましたので、こちらは新任の委員のみご紹介いたします。

東北・北海道支部

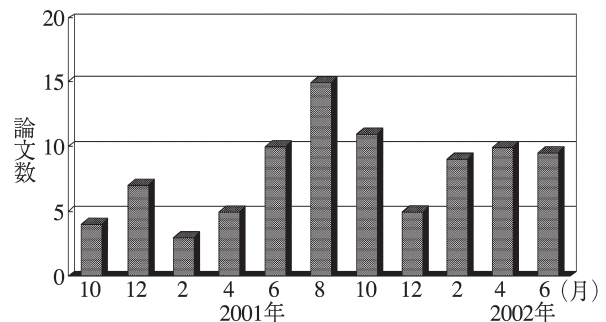
佐々木啓一教授（東北大学大学院歯学研究科顎口腔機能解析学講座）

東海支部

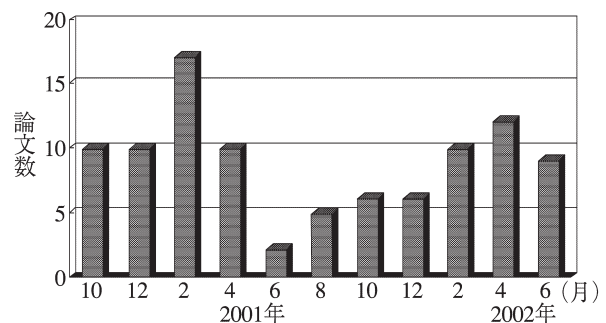
山内六男教授（朝日大学歯科臨床研究所）

本会誌に投稿しよう

ここ2年ほど本会誌への投稿論文数が減少し、それに伴い掲載論文数も減少しています。学術大会では、年間300題を越す演題が発表されていますが、投稿されるのはそのうち20%に満たない量です。この傾向は、ほかの学会においてもみられることですが、学術雑誌発行は学会活動の根幹をなす事業ですので、皆様のご投稿をお願いいたします。また、編集委員会では、依頼論文や新しい企画などにより、会員の皆様が興味をもてる補綴誌になるよう誌面刷新を行っています。



投稿論文数の推移



掲載論文数の推移

日本補綴歯科学会デンツプライ賞 創設される

(株)デンツプライ三金社より本学会に日本補綴歯科学会デンツプライ賞(DENTSPLY Merit Award)の創設依頼があり、創設することが理事会、評議員で議決されました。表彰内容は、表彰盾および副賞です。対象者は部門別で最大6名までで、年2回学術大会時に表彰されることになりました。第107回学術大会から選考されましたが、記念すべき第1回目は、ニュースレター8号で紹介しました課題口演優秀賞受賞者の4名の先生方に授与されることになりました。

学術大会の問題点を探る

学術委員会では、補綴臨床を進歩させる歯科補綴学の研究の質をさらに向上させるための学術大会を目指し検討してきました。その結果、現行の学術大会の問題点が明らかになりましたので、以下のように問題点と解決策について理事会で提案させていただきました。何かご意見がありましたら、学術委員会までお願いいたします。

- ・年2回の開催：年1回の開催、春と秋で性格を変える
- ・大会長の持ち回り：大会長の立候補・指名制
- ・企画決定プロセスの規定の不整備：企画決定プロセスの整備（申し合わせの作成）
- ・会場の予約に準備費用が不足：事前に当番校に支給
- ・学術大会に対する点検評価が不十分：全評議員による点検評価の実施
- ・海外からの参加者は国際セッションしか理解できない：全抄録の日英併記、国際セッションの拡大
- ・大講座化により講座単位の演題数の制限が困難：演題数制限の撤廃
- ・実質的な討論時間が短い：質問の簡素化
- ・演題の応募分野「その他」が増加：従来の8分野の見直し
- ・細かすぎる文字・表・グラフが散見：発表のためのガイドラインの作成
- ・所属講座名が複雑化し略称が混乱：大学名のみ記載

第109回学術大会案内（予報）

開催日：平成15年5月9日（金）、10日（土）
会場：品川区立総合区民会館「きゅりあん」
JR・東急線大井町駅前
〒140-0011 東京都品川区東大井5-18-1
Tel：03-5479-4100
Fax：03-5479-4110
<http://www.shinagawa-culture.or.jp/curian/>

大会長：石上友彦教授（日本大学歯学部補綴学教室局部床義歯学講座）

メインテーマ：未定

内容：特別講演，メインシンポジウム，臨床シンポジウム，教育講演，研究教育研修，一般口演，ポスター発表，課題口演，臨床口演，国際セッション，技術・技工セッション

内容については、現時点でのものです。変更になることもあります。

問い合わせ先：佐藤吉則

〒101-8310 東京都千代田区神田駿河台1-8-13
日本大学歯学部補綴学教室局部床義歯学講座
TEL：03-3219-8144 FAX：03-3219-8350

第8回認定医研修会（予定） 認定医ケースプレゼンテーション

開催日：平成15年5月11日（日）
会場：「きゅりあん」
応募締切り：平成15年1月17日（金）必着
プログラムなどの詳細は、学会誌第47巻第2号掲載予定の学術大会案内をお読みください。

今後の学術大会

第110回学術大会（予定）
開催日：平成15年10月24日（金）、25日（土）
会場：長野県民文化会館
大会長：甘利光治教授（松本歯科大学歯科補綴学第二講座）
連絡先：〒399-0781 長野県塩尻市広丘郷原1780

松本歯科大学歯科補綴学第二講座
TEL：0263-52-3100
FAX：0263-53-3456

第111回学術大会（予定）

開催日：平成16年春
会場：東京都内
担当：東京医科歯科大学

第112回学術大会（予定）

開催日：平成16年秋
会場：神奈川県内
担当：神奈川歯科大学

支部学術大会のお知らせ

東京支部

開催日：平成15年3月15日（土）
会場：日本大学会館
大会長：芝 燁彦教授（昭和大学歯学部有床義歯学教室）

西関東支部

開催日：平成15年2月16日（日）
会場：甲府富士屋ホテル
大会長：金山公彦先生（山梨県歯科医師会会長）

東海支部

開催日：平成14年11月23日（土）
会場：朝日大学
大会長：長澤 亨教授（朝日大学歯学部歯科補綴学講座）
特別講演：上田 実教授（名古屋大学大学院医学研究科・頭頸部感覚器外科学講座）
「再生医学の歯科臨床への応用」—幹細胞を使った歯と歯槽骨の再生—

関西支部

開催日：平成15年3月8日（土）
会場：金沢市内
大会長：野首孝祠教授（大阪大学大学院歯学研究科統合機能口腔科学専攻顎口腔機能再建学講座）



ニュース 日本歯科新聞に第108回学術大会特集される

第108回学術大会のメインテーマである「新しい歯科補綴のパラダイム—歯科補綴の専門性—」に関して、日本歯科新聞との座談会が開催され、その模様が日本歯科新聞1294号に2ページにわたり掲載されました。是非ご一読ください。

なお座談会出席者は、川添堯彬会長、川和忠治副会長、藤井輝久第108回学術大会長、赤川安正学術委員長、石橋寛二認定審議会委員長、山内六男広報委員長の6名でした。

公益法人とは

本学会では、法人化を目指して準備に入っていますが、法人について総務省ホームページから引用し、解説します。

公益法人とは一般に、民法第34条に基づいて設立される社団法人又は財団法人を指し、その設立には、①公益に関する事業を行うこと、②営利を目的としないこと、③主務官庁の許可を得ることが必要です。

社団法人は、一定の目的のもとに結合した人の集合体であり、団体として組織、意思などをもち、社員は別個の社会的存在として団体の名において行動する団体です。

前記のように一般的には、公益法人とは、民法第34条に基づいて設立される社団法人および財団法人のことを指しますが、民法以外の特別法に基づいて設立される公益を目的とする法人のことを、便宜上「広義の公益法人」ということがあります。それらの法人には、学校法人、社会福祉法人、宗教法人、医療法人、更生保護法人、特定非営利活動法人（いわゆるNPO法人）などがあります。民法に基づく公益法人の設立にあたって許可主義がとられているのに対し、これらの法人の設立には認可主義あるいは認証主義がとられています。

また、民法においては公益法人または営利法人の設立しか規定されていないので、公益も営利も目的としない、公益法人と営利法人との中間的な団体は、特別法の規定がある場合に限り法人格を取得することができます。これを「中間法人」といいます。

これら各種法人のなかで本学会が取得可能な法人格は、「中間法人」と「特定非営利活動法人」です。

中間法人は、同窓会、業界団体、親睦団体など公益を目的とせず、かつ営利を目的としない団体で、その法制度創設について、平成11年9月から法務省法制審議会民法部会において審議が行われてきました。その結果、「中間法人法案」として平成13年3月13日に国会へ提出され、可決され、成立しました。平成14年4月1日から施行されています。

特定非営利活動法人は、特定非営利活動を行う団体に法人格を付与することなどにより、ボランティア活動をはじめとする市民が行う自由な社会貢献活動としての特定非営利活動の健全な発展を促進し、もって公益の増進に寄与することを目的としたものです。「特定非営利活動」とは、「保健、医療または福祉の増進を図る活動」、「社会教育の推進を図る活動」など12活動であって、不特定かつ多数のもの利益の増進に寄与することを目的とするものをいいます。

以上が両法人のあらましですが、本学会はこれらの設立要件はすべて満たしており、取得も可能と思われます。

しかし、平成14年3月28日付けで「行政改革推進本部決定」として「公益法人制度の抜本的改革に向けた取組みについて」が告示されました。すなわち、「最近の社会・経済情勢の進展を踏まえ、民間非営利活動を社会・経済システムのなかで積極的に位置づけるとともに、公益法人（民法第34条の規定により設立された法人）について指摘される諸問題に適切に対処する観点から、公益法人制度について、関連制度（NPO、中間法人、公益信託、税制など）を含め抜本的かつ体系的な見直しを行う。見直しにあたっては、内閣官房を中心とした推進体制を整備し、関係府省および民間有識者の協力の下、平成14年度中を目途に「公益法人制度等改革大綱（仮称）」を策定し、改革の基本的枠組み、スケジュールなどを明らかにする。また、平成17年度末までを目途に、これを実施するための法制上の措置そのほかの必要な措置を講じる。」となっています。

このようなことから、法人格取得に関しては流

動的ですが、さらに情報を収集したいと考えています。そのため、平井敏博教授をチーフとして法人化準備が進められています。

（総務省ホームページ <http://www.soumu.go.jp/>より抜粋）

日本学術会議咬合学所属 14 学会 代表者会議について

日本学術会議咬合学研究連絡委員会の委員長は、本学会員の小林義典教授（日本歯科大学歯学部歯科補綴学第1講座）がされています。先生のご提案で、咬合学に登録されている38学会のうち、主要な14学会の代表者による会議が、平成12年度から今年度にかけて4回開催されています。

この14学会代表者会議の主な内容は、社会への歯学の重要性のアピールや歯学研究業績の情報の伝達の推進、そのためのシンポジウムなどの開催協力や支援、日本学術会議の各部で多数設置されている小委員会の歯学領域での立ちあげ、日本医歯薬アカデミーへの協力などです。

本学会でもこの要請を受け、第107回学術大会にあわせて、咬合学研究連絡委員会との併催シンポジウム「咬合と睡眠—睡眠時無呼吸との関わり—」を開催しました。

小委員会については、理事会において「咬合咀嚼機能再構築研究検討小委員会」を立ちあげることが決定しました。委員は、委員長会メンバーと本学会員の咬合学研究連絡委員会委員です。任務は、咬合および咀嚼機能の再構築に関する研究の新しい在り方について提言を行うことです。具体的には、歯や口腔組織が喪失することに起因する咬合および咀嚼の機能低下と病態生理の実相を学際的シンポジウムなどにより検討し、これらの結果をもとに、咬合咀嚼機能の再構築を目指す新しい研究の方向性を提言することです。

日本医歯薬アカデミーとは聞き慣れない団体名ですが、設立の趣旨は、「わが国の医学、歯学、薬学および医療の基盤の確立と拡大強化を図り、国民の健康水準を向上することはきわめて重要である。ライフ・サイエンス革命の黎明期を迎え、精密・高水準の医療技術の台頭、包括的な医療の

質的变化などの趨勢のなかで、人類の幸福のために、先見的、創造的な医・歯・薬学の展開、多様なニーズへの対応、医療システム、医・歯・薬学教育の画期的向上を目指すため、長期的展望・国際的視野に立脚し、即応的に機能するような医・歯・薬学研究、医施設全般にわたる総合的に調整、指導する機関の設立が必要である。そこで、医学、歯学、薬学、医療の分野における日本学術会議会員を主体とした人々が集い、あいまって日本医歯薬アカデミーを設立し、わが国の医学、歯学、薬学および医療の発展を図る。この日本医歯薬アカデミーは日本学術会議の設置趣旨を踏まえ、民間活力を導入してその活動を拡充することを目的とし、日本学術会議との間で相互補完することを役割としている。」とされています。名称は、日本医歯薬アカデミーとなっているものの、従前、歯科関係の役員は内田安信教授（明倫短期大学長、東京医科大学名誉教授）のみでした。内田安信先生は医科大学の関連から入っておられる方で、事実上歯科関連は1人もいませんでした。しかし、平成14年から小林義典教授が歯科としては初めて役員に入られました。

日本学術会議とアカデミーとの関連については、社団法人日本工学アカデミーのホームページ (<http://www.eaj.or.jp/eajnews/news76/news76-2-j.html>) をご覧下さい。

海外研修機関の紹介

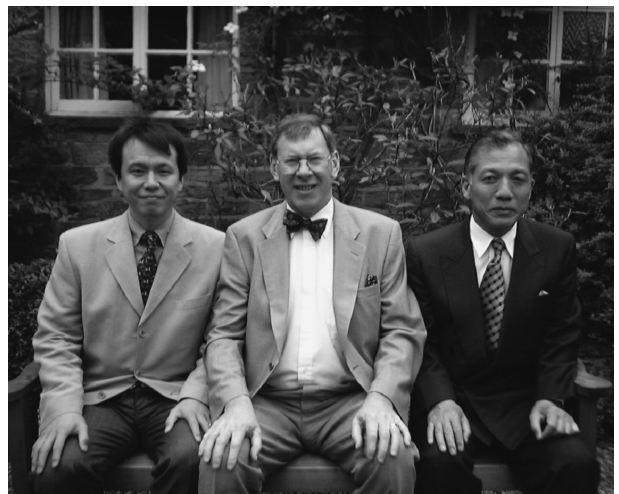
鶴見大学歯学部歯科補綴学第一講座
米山喜一

Newcastle 大学 (University of Newcastle upon Tyne) は英国のロンドンより北へ約 500 km、イングランド北東部のスコットランドとの境界に位置する Newcastle upon Tyne という人口約 25 万人の牧歌的な田舎町にあります。この町は産業革命の頃、世界有数の重工業都市として名を馳せました。Newcastle 大学はそんな伝統と歴史のある町の中央に位置し、文学部や法学部など 10 学部からなる、学生数約 1 万人の総合大学です。歯学部は 1895 年に、医学部の一部門として設立されました。

私が在籍した理工学教室 (Dental Materials Science Unit) は修復学講座 (Dept. of Restorative Dentistry) の一部門であり、スタッフは John F McCabe 教授とテクニシャンの Mr. TE Carrick と Ms. S Rusby の 3 名と、とても小さな教室です。

McCabe 教授は歯科用セメントの世界的権威で、ISO の委員長でもあります。歯科用セメント以外にもコンポジットレジンや軟質裏装材などの安定性と効果についてなど研究テーマは多岐にわたっています。これまでの研究成果が認められ 1998 年に IADR より理工学者としてとても名誉のある Wilmer Souder Award を授与されました。

McCabe 教授の人柄はとても気さくで、ユーモアと知性を兼ね備えた紳士的な親日家です。スタッフも親切で、家庭的で快適な環境のなかで研究を行うことができます。McCabe 教授を慕いこれまで数多くの日本人が訪れ海外研修を行っており、現在も岡山大学、大阪大学、広島大学、鹿児島大学そして鶴見大学などの McCabe 教授と関係の深い方々を中心に親睦会として JFMC (John Friendly Members Club) を組織して交流を深めています。



左から筆者、McCabe 教授、細井教授

日本歯科大学歯学部総合診療科
石田鉄光

私が1998年9月から2年間お世話になったフィリップス大学は、ドイツ、フランクフルトの北約100 Km, メルヘン街道に位置する人口約8万人の町にあります。このマールブルクは、ドイツのなかでゲッティンゲン、ハイデルベルク、チュービンゲンとともに4大大学町の1つに数えられています。

大学は、1527年ドイツで初めてのプロテスタントの大学として創立され、現在は21学部、学生数18,000人、職員数7,500人でドイツでは中規模の大学です。歯学部は、1890年に創立され、ドイツのなかでも長い歴史を有しています。

さて、私が在籍していた補綴学教室は、ロツツマン教授以下10名の専任スタッフが在籍しており、学生の臨床教育、研究を行っていました。ロツツマン教授は、ここの教授として就任してまだ約5年で40代半ばということもあり、いろいろなことに探究心が旺盛で、日本のことについても歯学教育のことや文化についてなどいろいろと聞かれました。ロツツマン教授の専門は、顎関節機能障害、咬合、インプラント補綴などで、これらに関しては著書やカラーアトラスなど多くの書籍を出版しています。

私は、顎顔面補綴学教室の教授である、レーマン教授が開発したマールブルガードッペルクロー



左が筆者、右がロツツマン教授

ネシステムを応用した局部床義歯について学ばせていただきました。実際に自分で患者さんを治療させていただきながら、このシステムの技工操作を含む製作方法および臨床応用について詳しく学ぶことができました。このシステムは、レジリエンツテレスコープに維持装置としてスナップ型のアタッチメントを付加した構造をしており、いろいろな場面に応用されていました。

ドイツでいろいろな経験をさせていただきましたが、この経験を今後の臨床に生かすよう努力していきたいと考えています。

関連学会案内

第6回日本顎顔面インプラント学会

開催日：平成14年11月2日（土）、3日（日）

会場：北海道歯科医師会館

大会長：田中 収教授

（北海道医療大学医療科学センター）

内容：一般講演、大会長講演、業者展示

教育講演：Dr. Ingvar Ericsson 教授（ルンド大学）「One stage surgery and early functional loading」

第13回日本臨床スポーツ医学会学術集会

開催日：平成14年11月2日（土）、3日（日）

会場：名古屋国際会議場

大会長：佐藤祐造教授

（名古屋大学総合保健体育科学センター）

メインテーマ：臨床スポーツ医学の新たな挑戦

会長講演：「糖尿病運動療法の今日的課題」

教育講演：「スポーツ障害における再生医療の応用

1. 口腔外科の立場から：上田 実教授（名古屋大学大学院医学研究科）

2. 整形外科の立場から：石黒直樹教授（名古屋大学大学院医学研究科）、

その他、教育講演5演題

シンポジウム：「スポーツ歯科医学の過去・現在・将来：大山喬史教授（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科）」、その他、シンポジウム3演題

その他、教育講演5演題

シンポジウム：「スポーツ歯科医学の過去・現在・将来：大山喬史教授（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科）」、その他、シンポジウム3演題

その他、教育講演5演題

その他、教育講演5演題

その他、教育講演5演題

その他、教育講演5演題

その他、教育講演5演題

第12回日本磁気歯科学会

開催日：平成14年11月16日(土)、17日(日)
会場：長野第一ホテル(JR長野駅徒歩3分)
大会長：五十嵐順正教授

(松本歯科大学歯科補綴学第一講座)

特別講演：山田 一名誉教授(信州大学)「磁気を応用した生体内計測」

第50回国際歯科学研究学会日本部会(JADR)

開催日：平成14年11月30日(土)、12月1日(日)
会場：ネ！ットU仙台市情報・産業プラザ
大会長：渡辺 誠教授(東北大学大学院歯学研究科加齢歯科学分野)

内容：JADR第50回記念式典・記念講演、一般講演

特別講演：Edward T Lally (University of Pennsylvania)

シンポジウム1：「歯科領域における再生医療の将来—生物学的基盤に根ざした再生医療を目指して—」

シンポジウム2：「古賀敏比古先生メモリアルシンポジウム—齲蝕細菌と歯周病細菌についての最近の知見—」

シンポジウム3：「接着材料を用いた修復物と補綴装置の臨床成績」

ランチオンシンポジウム：「近未来のカロロジー—知の再構築と新しい治療・予防法を求めて—」

市民フォーラム：「歯・口と全身機能—歯・口のはたらき—」

第13回日本スポーツ歯科医学会

開催日：平成14年12月14日(土)、15日(日)
会場：コンパルホール(市民公開講座)

大分県歯科医師会館(学術大会)

大会長：近藤俊彦先生(大分県歯科医師会会長)
市民公開講座：

メインテーマ：「はなしなしか」噛むComeスポーツ

特別講演：大山喬史教授(東京医科歯科大学大学院)「スポーツ歯学とは」

教育講演：青木 功氏(プロゴルファー)「私と

ゴルフ」

学術大会：

特別講演：坂田利家名誉教授(大分医科大学)「咀嚼と健康」

第29回日本顎口腔機能学会学術大会

開催日：平成14年12月14日(土)

会場：愛知学院大学歯学部楠本校舎

大会長：川口豊造教授(愛知学院大学歯学部歯科補綴学第二講座)

特別講演：平場勝成教授(愛知学院大学歯学部生理学講座)「外側翼突筋上頭・下頭の関節頭並びに関節円板の運動に対する機能的役割(仮題)」

第21回日本接着歯学会

開催日：平成15年1月25日(土)、26日(日)

会場：日本歯科大学新潟歯学部講堂

大会長：畑 好昭教授(日本歯科大学新潟歯学部歯科補綴学第2講座)



ニュース 新任教授紹介

大川周治先生(明海大学歯学部歯科補綴学講座)

越智守生先生(北海道医療大学歯学部歯科補綴学第2講座)

なお、両先生は評議員にも追任されました。

関連学会報告

第15回日本顎関節学会

平成14年6月27日(木)、28日(金)日本都市センターにおいて天笠光雄教授(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科顎顔面外科学分野)を大会長として開催されました。

特別講演は、守屋秀繁教授(千葉大学大学院医学研究院整形外科学)により「関節疾患の臨床における関節鏡視下手術の役割」と題して行われました。シンポジウムは「バイトプレートと顎関節症—その臨床的意義—」、「変形性顎関節症の病態」2題が行われ、本学会からは、前田照太助教授(大阪歯科大学欠損歯列補綴咬合学講座)および佐藤

博信教授（福岡歯科大学咬合修復学講座冠橋義歯学分野）がシンポジストとして講演されました。

次年度は、平成 15 年 7 月 10 日（木）、11 日（金）に鹿児島において開催されます。

第 4 回 WCOI-Japan

平成 14 年 6 月 29 日（土）、30 日（日）東京水道橋グリーンホテルにて岸 正孝教授（東京歯科大学歯科補綴学第 3 講座）を大会長として開催されました。特別講演は、Lemons JE 教授（アラバマ大学）による「Surgical implant biomaterials and biomechanics」および Weiss CM 先生（President of United States of Institute of Implant Dentistry）による「Improved treatment predictability and prognoses through facilitation of controversy resolution in implant dentistry」が行われました。また、一般講演、インプラントシステムの紹介講演が行われました。今回は、WCOI の日本部会ということで、抄録集もすべて英文でつくられ、発表も英語で行われました。なお、第 6 回 WCOI は、平成 16 年 3 月 5～7 日まで第 82 回 IADR のサテライトとしてハワイコンベンションセンターにおいて開催されます。

第 17 回日本歯科産業学会

小田 豊教授（東京歯科大学歯科理工学講座）を大会長として平成 14 年 7 月 27 日（土）、28 日（日）の 2 日間、東京歯科大学水道橋校舎血脇記念ホールにおいて開催されました。メインテーマ「8020 を支える歯科産業」に沿った特別講演「失活歯支台築造の新システム」が眞坂信夫先生（東京都開業）により、「審美修復の現状」が平井義人教授（東京歯科大学歯科保存学第三講座）により行われました。また、シンポジウム「光重合器を再検討する」、「歯冠補綴材料を再考する」も行われました。

日本 IMZ・フリアリット-2 インプラント研究会 第 8 回学術大会・症例検討会

平成 14 年 8 月 24 日（土）、25 日（日）に日本歯科大学新潟歯学部アイヴィホールにおいて、渡邊文彦教授（日本歯科大学新潟歯学部歯科補綴学第 2 講座）を大会長として開催されました。

この大会ではメインテーマを「これからのインプラントに求められるもの—ティッシュマネジメントから QOL—」とし、特別講演は、宮地建夫先生（鉄鋼ビル歯科診療所）による「欠損をどう読むか？」、杉山高一教授（中央大学理工学部）による「予後判定のための統計解析」が行われました。教育講演は、眞坂信夫先生（東京都開業）により「インプラント治療と QOL」と題して行われました。

次年度は、平成 15 年 6 月 14 日（土）、15 日（日）に東京において開催されます。

関連国際学会報告

第 1 回咀嚼と健康国際会議 (第 13 回日本咀嚼学会と併催)

平成 14 年 9 月 15 日（日）～18 日（水）にパシフィコ横浜において、基調講演、特別講演 3 題、シンポジウム 12 題、市民フォーラム、リサーチレポートなど多彩の催しが行われました。市民フォーラムでは、三笠宮寛仁殿下、アグネスチャンさんらが、噛むことの大切さをわかりやすくお話しされていました。15 日には、一般市民に咀嚼の大切さを啓蒙・指導できる人材を育成するための「健康咀嚼指導士」の講習会も行われました。

新規認定研修機関の紹介

研修機関（甲）

1. 松本歯科大学総合診療科〔山下秀一郎〕（学校法人松本歯科大学・理事長：三浦政之進）
2. 東京大学医学部歯科口腔外科〔富塚 健〕（東京大学医学部附属病院・病院長：加藤進昌）〔 〕は指導医、（ ）は施設長です。

研修機関（乙）

1. 上り口歯科医院〔上り口寛武〕（大阪歯科大学欠損歯列補綴咬合学講座：井上 宏）
2. 県立広島病院〔延原 浩〕（広島大学大学院医歯薬学総合研究科展開医科学専攻・顎口腔頸部医科学講座（歯科補綴学第一）：赤川安正）〔 〕は指導医・施設長、（ ）は連携認定研修機関（甲）、同機関指導医・施設長です。

新指導医・認定医紹介

以下の先生方が新しく指導医，認定医になりましたのでご紹介いたします。

指導医

伊藤創造，横山敦郎，相良昌宏，奥田耕一，
小林 博，馬場一美，原 節宏，石田鉄光，
志賀 博，鈴木清貴，川井善之，大久保力廣，
花谷重守，三村真一，瑞森崇弘，井田治彦，
東 和生，中村隆志，河上雄之助，窪木拓男，
鈴木 温，堀内政信，山辺芳久，吉田圭一，
城戸寛史，有田正博，疋田陽造

認定医

武部 純，鈴木卓哉，小林康二，植原典子，
伊藤克紀，大森 実，大山哲生，秋山仁志，
小峰 太，鈴木富士雄，山田直樹，黒岩昭弘，
鈴木秀典，佐嶋英則，喜多誠一，前川賢治，
荒川 光，今村義治

新入会会員紹介

以下の先生が新たに入会されました。今後の学会でのご活躍を期待します。

阿部伸一，飯島国好，池田智之，石川輝明，
石塚 亨，伊藤聡美，大西雅之，大野洋介，
奥田恵司，奥寺 元，柿本直也，笠島千穂，
鍛治田忠彦，北村 学，北村万里子，木村拓司，
沓澤伸武，栗本徳幸，黒田俊太郎，小嶋 憲，
小宮山高之，佐藤大輔，澁澤真美，清水崇雪，
下川博之，鈴木晴信，鈴木 龍，須藤恵美，
高野 玄，高橋健太，高橋 洋，高松純一，
田中久美子，田村佳則，坪井栄範，寺尾登喜雄，
董 堅，戸谷幹弘，中村潤二，那須智代，
西浜直樹，西村叔枝，馬場史郎，早野圭吾，
原田江里子，半田 潤，廣原英樹，深澤亜紀，
深谷拓勝，藤井健男，細貝暁子，眞木吉信，
増田 貴，松井孝介，宮城尚広，森居研太郎，
柳沢光一郎，山岡義孝，山下浩二，山下道也，
横川佳代子，横山大一郎，渡部実佳

法人会員紹介

以下の歯科関連会社には，雑誌発行や学術大会開催でご協力をお願いしています。会員の先生方のなかには，ご存じない方もおられると思いますのでご紹介いたします。

エーピーエス (株)，井上アタッチメント (株)，
石福金属興業 (株)，長田電機工業 (株)，
亀水化学工業 (株)，昭和薬品化工 (株)，
(株) 城楠歯科商会，タカラベルモント (株)，
(株) デントロニクス，(株) 日本橋徳力，東京
歯科産業 (株)，(株) 東京技研，日本歯研工業 (株)，
ネオ製薬工業 (株)，白水貿易 (株)，パナソニック
ヘレウスデンタル (株)，(株) モリタ，
(株) ワイディエム，(株) ヨシダ，ロート製薬 (株)，
和田精密歯研 (株)，スリーエムヘルスケア (株)，
モルテンメディカル，(株) トクヤマ，ノーベル・
バイオケア・ジャパン (株)，京セラ (株)，
(株) 日本歯科工業社，(株) クラレメディカル，
(株) ニッシン，フジフィルムビジネスサプライ (株)，
ライオン歯科材料 (株)，小林製薬 (株)，
(株) 東京歯材社，マニー (株)，(株) コマツ，
(株) デニックス，(株) デンタルダイヤモンド社，
サンメディカル (株)，(株) プラトンジャパン，
ヘレウスクルツアー・ジャパン (株)，(株) ナカニシ，
矢田化学工業 (株)，クインテッセンス出版 (株)，
山八歯材工業 (株)，医歯薬出版 (株)，
三金工業 (株)，(株) ジーシー，(株) 松風，
(株) 茂久田商会，日立金属 (株)

広報委員会からのお願い

広報委員会では，学会に対する皆様からのご意見，ご要望，ご質問をお待ちしております。下記のファックスかメールにてお願い致します。

〒500-8309 岐阜市都通5-15
朝日大学歯科臨床研究所附属歯科診療所
日本補綴歯科学会広報委員会
委員長：山内六男 幹事：岩堀正俊
TEL：058-253-7272 FAX：058-255-0350
koho@dent.asahi-u.ac.jp